

# インフォメーション 事務局からのお知らせです

## ■今から、ここから！

### ……首都圏センター開所式

今から、ここから、もっと成長できるよ、気持ちを新たにがんばりたいと思います(首都圏センター長・沢村智代美さん)。8月17日。あいにくの雨の中、待望されていたらでいっしゅぼーや(株)の新首都圏センター(東京都板橋区)の開所式が開催され、翌18日から本稼働となりました。式にはRadixから、会長の五月女清以智さん(はるこま屋)、農産関東ブロック代表の早川宗延さん(明野早川グループ)が参加。式典では関係者による祈念のお祈りのあと、入庫プラットホーム



を舞台にテープカット、くす玉が割られ、新しいスタートを祝いました。

(竹内)

## ■水俣被災。吉開さんに励ましのお便りをお願いします

7月20日未明から九州中南部を襲った集中豪雨のため、肥薩自然農業グループ、かんきつ栽培の吉開英機さん(熊本県水俣市)が被害に遭われました。吉開さんは新聞でも報道された水俣市宝川内地区にお住まいで、幅約300メートルに及ぶ土石流により田畑の多くや倉庫、農機などを失ったばかりか、被害は築100年のご住居にも及びました。

吉開さんは現在、ご自身の大きな被害にもかかわらず、不自由な仮設住宅での生活を続けながら、被災者の会の代表として地域の復興に奔走しているとのこと。幸いにして一命を取りとめ、ご家族も無事であった

とはいえ、もとの暮らしに戻るまでにはご苦労が続くと思われます。

緑と水と海の美しい水俣の地で、吉開さんが再びその恵みを感じながら畑に打ち込めるよう、心からお祈りしたいと思います。吉開さんに励ましのお便りをお願いします。(竹内)

**吉開英機さん、ヒロ子さん**  
お便り先 〒867-0171

熊本県水俣市宝川内137

## ■大和川ツアー開催中。土にまみれて、タネを蒔く体験

7月26日、今年度連続して開催している大和川ツアー(25号参照)へ参加してきました。この時期の主な作業は田んぼの草取り。ご参加いただいた会員さん2家族(山家(やんべ)さん、松本さん)のお子さん達は、これまでのツアーへも参加しており、田んぼの歩き方も慣れたもの。大人と一緒に、腰まで生長した稲を掻き分けながら、一生懸命草取りをしてくれました。その後は喜多方を一望できる高台にある蕎麦畑で、蕎麦の種まき体験。そして夕食には手打ち蕎麦を堪能して終わりました。大人にとっても貴重な体験ですが、お子さん達の記憶に良い体験として残ってくれば大成功だなと感じました。今後稲刈りから酒造りまで続きます。

(鈴木)



そばの種の蒔き方講習中。

## ■日本農業新聞に、野菜くらぶでの『らでいっしゅ産地交流会』の様子が掲載されました。

大きくとり上げられた8/19付けの取材記事は、“産地交流会が人気”とし

て、8/2のらでいっしゅのトウモロコシ狩りの様子を紹介。申込者が定員を超え子供づれの150人が、昭和やさいくらぶ(群馬)で、収穫と交流を楽しんだ様子が紹介されました。

『子供を農業にふれさせたい』という親の気持ち、そして『顔の見える関係を大切にしたい』という生産者側の気持ち。これらが一体となった交流会は、Radixでも今後つないでいきたい、人と人を結ぶ架け橋です。(山川)

## ■2002年度より幹事役員を務められた川合正憲氏(内浦漁業協同組合)が辞任されました。

らでいっしゅぼーやへの販売担当をされていた川合さんは、昨年より漁協の支所長に栄転、主に信用事業を担うこととなり、以前より辞任のお申し出をいただいておりますが、事情を慮り今役員会にて了承されました。欠員については年度中の補充は行なわないこととしました。

**訂正とお詫び** 前25号、7ページで、お名前の誤りがありました。(誤)村山俊和さん(いわさきやさい倶楽部)→(正)村山敏明さん(いわさきやさい倶楽部)お詫びと共に訂正いたします。

## Radix Milestone

・・・活動短報・・・

### 2003年8月

- 8 お茶の水大学、ビタミンC研究会出席
- 17 らでいっしゅ首都圏センター開所式
- 18 農産部会関西ブロック委員会(岡山)
- 19 農産部会パソコン勉強会(愛知)
- 23 五月女会長、坂東氏援農視察(北海道)
- 26 第一回Radix検討委員会
- 27 畜産部会北海道農場視察(北海道)
- 28・29 畜産部会豚分科会(群馬)

## 後記

今年の天気はひどい。家庭菜園もグチャグチャで、ネギなんかはほとんど腐っちゃったし、病気も多く出ている。各地の生産者の悲しさや悔しさに痛み入ります。大雨や冷夏への悲しみは、自然との関わりの近さにより、住む場所やなりわいにより大きく違う。都会では台風が上陸してテレビにクギづけにはなっても、被害に遭うことはほとんどない。こと自然については、悲しみの容れ物の大きさが違うから、僕らがそれを、そのスケールで感じるの難しい。それは喜びについても言える。自然が相手の農業には、術もなくしおれてしまった畑が、自然の恵みで蘇るさまを目の当たりにする感動もある。悲しみが大きい分、喜びも大きいだろう。そして喜びが大きい分、その喜びは大きな悲しみの礎がある大きなのだと思う。(竹内)

## Radix News Letter

26号2003年9月25日発行  
らでいっしゅぼーや環境保全型生産者団体  
Radixの会

〒175-0081東京都板橋区新河岸1-15-9らでいっしゅぼーや内  
TEL 03-5399-4631 FAX 03-5399-4634  
E-MAIL office@radix-jp.org

Radixの会についてのお問い合わせは事務局までお願いいたします。

次号は10月下旬発行の予定です

この会報は大豆油インキを使用しています。